

統計研修講義計画書

研修課程	特別コース 実務に役立つ統計技術	講義科目	欠測値補完の総論	講義時間	1コマ
講師	椿 広計 (独) 統計センター 理事長				

※1コマ70分

講義のねらい

公的統計の実査環境の悪化に伴い、欠測値を推定し補完し推計を行うことが多くなっている。しかし、欠測値は、実際には観測されていない数値であり、それを集計や匿名マイクロデータなどで実データとして扱うことには大きな問題がある。

この講義では、欠測値補完の様々な方法の背後にある想定、その推計やモデリングに対する影響などを議論する。

指導項目と内容

指導項目	内 容
欠測メカニズムの分類	欠測や回答拒否はどのように分類されるのか？ 多くの分析に想定される Missing at Random の想定の意味を紹介する。
欠測値補完と欠測値推定の差異	欠測値を何らかの意味で無視するあるいは、欠測値にそれなりの推定値を代入する回帰補完は、なぜ欠測値分析としてはおかしいのか、欠測値の補完は本来の母集団分布を再現し、分析結果が保持されなければならないことを学ぶ。
標本理論を越えて：欠測理論の公的統計における利活用	欠測が生じる確率についてのモデリングが可能になることで、有意抽出されたビッグデータをこれまでの標本調査論に統合することが出来るようになっている。これが今後の公的統計を様々な意味で変容させる可能性がある。

講義形態 指導方法	座学と R による分析方法の提示
受講に必要な 基礎知識等	標本調査の基本理論、